

企業名：TBS ホールディングス

レポート名：統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

報告書の各所で、「メディアグループからコンテンツグループへ」「EDGE の効いたコンテンツを拡げる」「最高の“時”をつくる」といった標語が掲げられている。これらの内容から、TBS ホールディングス(以下 TBS)は人々により良質なコンテンツを提供していくことを目指しているのだと理解できた。

一方で、その「良質なコンテンツ」の中身については不透明であるように感じられた。コンテンツの例としてテレビドラマ「半沢直樹」「逃げるは恥だが役に立つ」等が挙げられていたが、これらはあくまで過去の成功例であるので、TBS の目指す姿に直接つながるものではないだろう。今後「コンテンツグループ」を掲げていく上では、提供していくコンテンツについてのさらなる説明が必要だろうと考える。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

7 ページの「TBS グループの社会的使命と存在意義」の部分には、「正確かつ公正な情報発信をしていく、また良質なコンテンツを送り続ける。その『信頼性』こそ私たちが提供する最大の価値」とある。このことから TBS が持つ競争優位性は、優れた情報発信源として人々に信頼されていることなのだと読み取れる。また、他の放送局にない強みとしてドラマとバラエティ番組のコンテンツが挙げられており、これも競争優位性だと理解できる。さらに、TBS は放送以外の事業(不動産、ライフスタイル事業など)にも多角的に取り組んでおり、これも TBS が持つ競争優位性と言える。

しかし、「信頼性」について疑問が残る。近年は SNS などの新たなメディアの台頭がめざましく、若年層を中心にテレビ離れが進んでいる。この状況を考えると、TBS が絶対的に人々に信頼されているとは言い難い。また Netflix といった動画配信サイトの普及により、テレビ局が放送するドラマやバラエティの地位が揺らいでいるのも事実である。よって新興のメディアや動画サイトにはない TBS 独自の特徴が今後の競争優位性となりうるのだろうが、そのような特徴はあまり読み取れなかった。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

12 ページの「VISION 2030」では、人々の信頼に応え、コンテンツの価値を最大化を目指すとしている。具体的な目標として、成長領域事業・放送事業以外の売上を全体の 60% に拡げることを掲げている。14 ページの「中期経営計画 2023」でも「回復と種まき」をテーマとして、抽象的な方針だけでなく具体的な目標数値を掲げている。17 ページからの「財

務戦略責任者メッセージ」でも、短期的・中期的な計画や目標が数多く言及されている。これらの箇所から、良質なコンテンツを維持・拡大していこうという未来への意識が読み取れるため、競争優位性には持続性があると判断できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

42 ページの「TBS の人材(人的資本)」では、TBS がどのような人材を有するのか、またどのように人材を成長させているのかが説明されている。まず、若手や女性、その他多様なバックグラウンドを持った人材の登用に力を入れ、報道における「価値観の偏り」の改革を進めていることがわかる。さらに、階層型研修と個別面談を定期的実施して社員一人ひとりのキャリアをサポートしたり、企業内大学である TBS グループユニバーシティを開学して選択可能な学びの場を提供するなど、人材育成の環境は非常に優れていることが読み取れる。

しかし、具体的にどのような人材に育てていくかが読み取れない。「豊かな感性・知見」「独創性を持つ」「挑戦思考」といった表現からではどんな人材なのか想像するのは難しい。また、「グループ全体の成長力の底上げ」「グループ全体の一体感を高める」といった目標からは、人材育成の目的が企業の利益にしかないかのような印象を受けた。

したがって、人的資本の価値向上は期待できそうであるが、どのような人材に成長できるかという具体的なビジョンがみえない。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

「VISION2030」にみられるように、短期的・中期的な計画・目標は具体的に掲げられている。しかし、大目的が不透明であり、どのような企業を目指しているのかがわかりづらい。特に、「最高の“時“」というスローガンは報告書の各所で掲げられているが、より具体的な表現に変更するか、それが何を意味するのかの説明を加えるべきではないかと考える。

また、他の放送局・他のメディアにはない TBS 独自の強みをより強くアピールすべきだと思う。新興のメディアがテレビに取って代わろうとしている現状において、テレビ放送局は自身の競争優位性をより積極的に主張していく必要があるだろう。この話題は、この報告書を読む人々にとっても最も関心があるものであると思う。